

最優秀賞

三世代で庭仕事

萩原 慎也 福島県福島市 三十九歳

「長靴履きたい！」

私の父が作業着に着替え、長靴を履く姿を見つけると、息子は待ってましたとばかりに玄関に急いだ。アパート育ちの六歳の息子は、花や野菜、果物が植えられた実家の庭が大好きだ。私の幼少期は田畑に囲まれて育ち、長靴は特別なものではなかったが、父と庭仕事をするのが好きだった。今どきのテレビゲームでも、インターネット動画でもなく、庭仕事に惹かれる息子はどこか幼少期の私と重なり微笑ましい。

先日、野菜の手入れに行こうとする父を見つけると、息子もお気に入りのつなぎ服を着て長靴を履いた。息子は耕したての庭に駆け込み、スコップで穴を掘っては土の山を作り、存分に土を楽しむ。野菜の種を蒔いた場所も気にも止めず走り回る息子。慌てて「そこは踏まないで！」と注意する父の姿に、私はクスッと笑う。

水やりのホースを持ち、長靴とつなぎ服姿で水を撒く姿は、消防士さながらの我が家のヒーロー気分である。

野菜の苗を植えていると「三世代で庭仕事ができるなんていいですね」と、近所の方が微笑みながら声をかけてくれた。手伝い半分畑を駆け回る息子を眺めながら、父と私が見たくもくもくと庭仕事をする。これも、素朴ながら何にも変えがたい、大きな喜びである。

庭仕事が終わって長靴を脱ぎ、土で真っ黒になった息子の靴下を見て三人でクスッと笑いあった。